

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	夢路 : 文苑
Author(s)	露草
Citation	龍南會雜誌, 1 2 3 : 6 4 - 6 5
Issue date	1907-12-25
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/6077">http://hdl.handle.net/2298/6077</a>
Right	

## 夢路

露草

長かりし夢。

六十四

なよらかに風こそ渡れ  
 月しるの照れる田の面は  
 押しあべて白罌粟つゞく  
 天竺の野もはの白みぬ、  
 白壇のぬれ葉をすべる  
 碎け星急づく水に  
 やがて又青の火を曳く  
 宇治燈。

古りける戀の魂よばひ  
 君も秘めたる憂き夢よ、  
 瑪瑙の壺に幾年の  
 干寂巧らたる黄長髪  
 見る眼を鈍み思ひ出を  
 臙脂むらさき臙の  
 雲にほの見てはよるみの

たどたどし濕地がくり  
 土鼠の子堀る窖路の  
 せうくまり自光に遠き  
 けうどきの足音ぬすみて  
 しのびかに濡れたる袖の  
 移り香もさはれ可懷し  
 木蔭路來てさは君故に  
 夕歎き。

腐れゝ花の温室に  
 濕り香薰るぬれ髪や  
 火照り頬を博つ血のゆらぎ  
 冥府の洞ある黙滴の  
 音にやは通ふ額重き  
 垂葉ゝけり葉はるほろと  
 壊れて兩人に枯色の

搾衣冷たき。

『あやや君』痛みし聲に

をのゝかせ愁ぞ來る

青びれし鋭き瓜に

捉へられ俯伏すんの

袖肩に白々うつる

月界の大漢のかげ

御靈社の扁額あれぬ

あゝ凶夜。

現と來れば眩らひや

夢伴へば物怖ちの

眸子を蔽ふ灰色の

古壁に見し解き難き

繪をしも思ひ遠に來て

夢路をたとり冷やし手を

つらねて迷ふ憂き影に

月冴わ渡る

石山にて

## 白檀火（二）

紫 秋

六十一はとゑみ

月の香爐の空住に

波千紹輪

森には匂ふ虫のころ。

露漫む桔梗英さく野の小徑に

葉月の涼しき風は仄に薫ず。

此時我れはふと見ぬ。——森の月に

微笑。——かつて別れし君が姿。

心の囚獄、颯と照る稲光に、

焦熱再びたぎる胸の湯氣に

匂へる君がまがざし髪のあよび

花虹しづく九輪の塔の象か——